

イザヤ54-55章 「二度と見捨てない方」

1A 思い出される女 54

1B 不妊の女への祝福 1-10

1C 多くの子 1-3

2C 見捨てない夫 4-8

3C ノアとの契約 9-10

2B 責めから守られる方 11-17

1C 宝石に飾られた都 11-12

2C 神の義による守り 13-17

2A 主に帰る民 55

1B 主ご自身への招き 1-7

1C 無償の購入 1-2

2C 確かで真実な契約 3-5

3C 豊かな憐れみ 6-7

2B 思いを超えた道 8-13

2C 必ず成し遂げることば 8-11

3C 山や木々の喜び 12-13

本文

私たちは前回、主のしもべの働きの究極の姿を見ました。この方が、王の王、主の主として戻ってこられますが、そこには損なわれた顔があり、人々が驚愕します。そして、残りの民が驚き、告白します。それは、病の人となった、傷を受けたイエスが、自分たちを救われる方なのだと悟るからです。自分たちの罪のため、咎のために苦しみを受け、罪人として死なれたと。しかし、この方は、ご自分の身代わりの死によって多くの人を義とすることができたのを見て、満足します。この方は、罪の身代わりのいけにえとして死なれましたが、よみがえられたのです。

この究極の働きによって、エルサレムが完全な回復を果たすことが 54 章また 55 章に書かれています。これまで、主のしもべの働きに織りなすようにして、エルサレムが慰めを受ける約束を、主はくださっていました。

1A 思い出される女 54

1B 不妊の女への祝福 1-10

1C 多くの子 1-3

1「子を産まない不妊の女よ、喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ、喜び叫べ。夫に捨てられ

た女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ。——主は言われる——

エルサレムが、サムエルの母ハンナのようになるという約束です。ハンナは不妊の女でした。エルカナのもう一人の妻ペニナは子を産みました。ハンナはもだえて、主の幕屋において声にならない祈りをささげました。そうしたらサムエルが生まれました。さらに後に、息子や娘が生まれました。サムエルが生まれた後にハンナがささげた祈りで、「Ⅰサム 2:5 不妊の女が七人の子を産み、子だくさんの女が、打ちしおれてしまいます。」とっています。

同じように、エルサレムは、敵によって破壊されて、そこに人が住まなくなってしまう、廃墟となってきた時代が長く続きました。世界の多くの都は、繁栄し、人々が多く住みます。しかし、終わりの日には、主ご自身が、ご自分によって生まれた者たちをたくさん、この都に連れて来てくださいます。そして、これまでの多くの栄えた都が恥ずかしくなるほど、大いに栄えさせるということです。

ロマ 9 章を見ますと、パウロは、同胞の民、ユダヤ人がメシアを受け入れず、拒んでしまっていることを嘆いています。しかし 11 章まで読むと、彼らに希望がなくなったのではないことを力説します。「11:11 彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。」とっています。そして続けてこう言っています。「かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。」彼らが福音を信じないことによって、神の救いの御手は異邦人にまで伸ばされました。12 節を読んでください。「彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょう。」初代教会以降、異邦人の間で数多くキリストを信じる者が起こされ、祝福されました。しかし回復の時がきます。異邦人の救いはすばらしいですが、元々救いの約束が与えられていたイスラエルの民は、なおのことすばらしい救いを手にするということです。

² あなたの天幕の場所を広げ、住まいの幕を惜しみなく張り、綱を長くし、杭を強固にせよ。³ あなたは右と左に増え広がり、あなたの子孫は国々を所有し、荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ。

天幕の場所を広げる風景は、今でもベドウィン、遊牧民がしていることです。家族の数が増えて住まいが手狭になったら、その幕を継ぎ合わせてさらに大きく張り伸ばします。このように、エルサレム、またイスラエルの地には子孫が増えて自分たちが住むところを広げていくという約束を、神は与えてくださっています。

2C 見捨てない夫 4-8

⁴ 恐れるな。あなたは恥を見ないから。恥じるな。あなたは辱めを受けないから。まことに、あなたは若いときの恥を忘れ、やもめ時代の屈辱を再び思い出すことはない。

エルサレムのことを、不妊の時の女に喩えて、その恥を拭い去ることを約束されています。当時の女にとって、不妊ほど不名誉なことはありません。聖書には、不妊の女に対する神の憐れみと約束が多いですね。サラもそうでした。先ほど話したハンナもそうでした。エリシャを家に迎えた、シュネムの女もそうですね。新約聖書では祭司ザカリヤの妻エリサベツに、バプテスマのヨハネが生まれました。

⁵ なぜなら、あなたの夫はあなたを造った者、その名は万軍の主。あなたの贖い主はイスラエルの聖なる者、全地の神と呼ばれているからだ。

エルサレムは、他の都と異なります。これを愛しているのは、ここにあるように、すべてを造られ、エルサレムも造られた方です。万軍の主であり、エルサレムのために戦ってくださいます。そして、贖われる方です。聖なる方で、全地の神です。キリストにあって、私たちも一人一人、自分たちを愛しておられる方は、このような方なのだと思います。

⁶ 主はあなたを 夫に捨てられた、心に悲しみのある女と呼んだが、若いころの妻をどうして見捨てられるだろうか。 —あなたの神は仰せられる—

主の愛は、真実な愛です。つまり、どんなことがあっても決して見捨てない方です。パウロが論じました、「ロマ 11:1-2a それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。・・2 神は、前から知っていたご自分の民を退けられたではありません。」前から知っていて、それで選ばれた民なのに、神が見捨てることはなさいません。

⁷ わたしはほんの少しの間、あなたを見捨てたが、大いなるあわれみをもって、あなたを集める。⁸ 怒りがあふれて、少しの間、わたしは、顔をあなたから隠したが、永遠の真実の愛をもって、あなたをあわれむ。 —あなたを贖う方、主は言われる。

主がお見捨てになった、怒りを現したというのは、ほんとうに一時的なのです。その御怒りでさえ、主がご自身の聖さにあずからせようとして、示された懲らしめであります。「ヘブル 12:10-11 肉の父はわずかの間、自分が良いと思うことにしたがって私たちに訓練しましたが、霊の父は私たちの益のために、私たちをご自身の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。」

そして、その真実な愛は、永遠です。大いなる憐れみです。二度と、見捨てられることはないものです。私たちが愛されている愛も、この愛です。主は懲らしめられますが、それは救いにあずかるためです。「I コリ 11:32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下される

ことがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。」

3C ノアとの契約 9-10

⁹ これは、わたしにはノアの日ようだ。ノアの洪水が、再び地にやって来ることはない、わたしは誓った。そのように、わたしはあなたを怒らず、あなたを責めない、わたしは誓う。¹⁰ たとえ山が移り、丘が動いても、わたしの真実の愛はあなたから移らず、わたしの平和の契約は動かない。—あなたをあわれむ方、主は言われる。

主は、ノアの時代の洪水の後に結ばれた契約を思い出し、同じようにイスラエルに対する契約を忘れることはなく、無効にされることはないと言っておられます。そして、山とか丘が揺れて、その場所から移ることなど、天変地異が起こらないかぎりあり得ないことです。しかし、それが起こっても、主の真実な愛は変わりません。また平和の契約は動きません。

ユダヤ人ほど、迫害され、散らされてきた民は世界の歴史の中で、他にいません。ですから、こんなにも辛酸を嘗めてきた民が、神がどのようにして愛しておられるのか？と思われるかもしれませんが。けれども、ここの箇所を読めば、お分かりになると思います。その苦しみが大きいだけ、主が見ておられて、愛しておられるということです。私たちも、「どうして、私にばかり、こんな苦しみが来るのか？」とってしまう、感じてしまうことがあるでしょう。けれども、そこには、ちょうどヨブが苦しみを経て、最後に慈しみが与えられたように、主の特別な計らいがあるのです。

2B 責めから守られる方 11-17

1C 宝石に飾られた都 11-12

¹¹ 苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰められなかった女よ。見よ。わたしはアンチモンであなたの石をおおい、サファイアであなたの基を定める。¹² あなたの塔を紅玉にし、あなたの門をきらめく石にし、あなたの境をすべて宝石にする。

主が、エルサレムをご自身の愛する妻として、さらに描き続けます。そして、ちょうど男に良いようにもてあそばれた女が、回復して、宝石を、王女のようにして、自分の身に飾らせると約束されています。黙示録 21 章の天のエルサレムは、実際に、宝石の輝きを持っている都であります。「21:18-21 都の城壁は碧玉で造られ、都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、第五は赤緋めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。十二の門は十二の真珠であり、どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは純金で、透明なガラスのようであった。」

2C 神の義による守り 13-17

¹³ あなたの子たちはみな、主によって教えられ、あなたの子たちには豊かな平安がある。

主の教えにある実は、平安です。先に引用した、ヘブル 12 章、訓練を受けた後の実について語っていました。「12:11 これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。」

¹⁴ あなたは義によって堅く立てられる。虐げから離れていよ。恐れることはない。恐怖から離れていよ。それが近づくことはない。¹⁵ 見よ。攻め寄せる者があっても、それはわたしから出たのではない。あなたに攻め寄せる者は、あなたの前に倒れる。

もし罪を犯しているのであれば、苦しみを受けても、その仕打ちということができます。しかし、義とされているのであれば、そこに対する苦しみは不当です。ですから、主が味方になってくださり、イスラエルを虐げから守ってくださるのです。主は時に、イスラエルを懲らしめるために敵が攻めてくるままにされますが、もはや主は、それをお許しになりません。これはもっぱら、神の恵みによります。イスラエルが正しいとされるのは、彼らの行いではなく、主が愛されているから、契約があるから、恵みによって義とみなしておられるのです。

それと同じ真理が、異邦人である私たちにもキリストにあって与えられています。「ロマ 8:31-34 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。」

¹⁶ 見よ。炭火を吹きおこし武器を作り出す職人を創造したのは、わたしである。それを壊す破壊者を創造したのもわたしである。^{17a} あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。

主が、すべてのことにおいて主権を持っておられることが、ここで分かります。武器を作り出すのも、破壊するのも主ご自身です。モーセが、弁が立たないことを主に語ったら、主がこう言われました。「出 4:11 人に口をつけたのはだれか。だれが口をきけなくし、耳をふさぎ、目を開け、また閉ざすのか。それは、わたし、【主】ではないか。」人が口をきけなくなるということには、主の許しがなければそうならないのです。ですから、今、口がきけなくとも、主は口を開くことができます。

私たちは、口を開くのが主だけで、口をきけなくするのは、主からではないとします。そうすると、主は主権者ではなく、そういった悪の働きには無力だということになります。いいえ、あらゆる

悪の働きの背後で、主がお許しになっていることがあるのです。悪魔そのものが、主の許しなしには、動くことができないのです。私たちが、悪がはびこっていて、無力感を抱く時に、それでも主は御座におられることを思い出しましょう。そして、その悪に対して無力ではなく、むしろ、ご自身によしとされる時に、それを裁かれることも忘れないようにしましょう。

17^b また、あなたを責め立てるどんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。——主のことば。」

主は、武器のような物理的な攻撃だけでなく、口による攻撃に対しても、きちんと対処してくれます。今でこそ、中傷に対して名誉棄損という罪によって訴えることができますが、それでもあまりにも不完全です。そして、信仰については、いわれのない悪口や中傷は付き物であることを、イエスご自身が語られました。人は、物理的に傷つけられるだけでなく、魂のある存在ですから、責め立てる舌によっても傷つけられます。しかし、主はそれをも、恵みによる義によって、私たちのために戦ってくださるのです。

2A 主に帰る民 55

こうして、主は恵みによって、イスラエルを豊かに回復して下さいます。そこで主は、今、この恵みの中に彼らを招かれます。主に帰れと、預言者イザヤは呼びかけます。主の憐れみは、それが与えられただけでは足りません。その恵みに対して、応答して初めて、その人のものになります。パウロが、コリントの人たちに対しても同じことを話していました。「Ⅱコリ 6:1-2 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みは無駄に受けないようにしてください。神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」

1B 主ご自身への招き 1-7

1C 無償の購入 1-2

1^a ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。²なぜ、あなたがたは、食糧にもならないもののために金を払い、腹を満たさないもののために労するのか。わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づく。

渴いている者が、喉が水によって癒されるということ。これを、主は、しばしば語られました。ヨハネの福音書を見れば、サマリアの女に対して、わたしの与える水は、飲んでも渴くことがないと言われたものがありますね。そして、主は黙示録の最後では、「22:17 渴く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」と言われているのです。

けれども、ここで主が、イザヤによって語られているように、彼らはそのまま恵みを受け取らず、何か自分が金を払って得るもの、労することを選んでしまいます。どうしてなのか？それらは金を払っても腹は満たされることはないのだ、と言われていました。自分で自分を救おうとして、それが徒労に終わってしまうということです。私たちにもある、大きな過ちですね。ただ、主の恵みの御座に大胆に近づけばよいのに、これをやってみる、あれをやってみるとして、役に立たないものに解決策を得ようとしてしまいます。

そこで、大事なものは、「わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。」ということです。よく聞き従うことです。黙示録での七つの教会でも、「御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。」という、主のことがありました。よく聞いて、それに従うのです。そうすれば、主からの豊かな憐れみを受けます。

2C 確かで真実な契約 3-5

³ 耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたと永遠の契約を結ぶ。それは、ダビデへの確かで真実な約束である。

主は、ダビデに対して、確かで真実な約束をくださっていました。「Ⅱサム 7:12-16 あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が不義を行ったときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。15 しかしわたしの恵みは、わたしが、あなたの前から取り除いたサウルからそれを取り去ったように、彼から取り去られることはない。16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」

こうした、はっきりとした約束があるのだから、耳を傾けなさい。それによって生きます、ということです。新たなところに行く必要はない、既にわたしは恵みの約束をしているのだ、ということです。

⁴ 見よ。わたしは彼を諸国の民への証人とし、諸国の民の君主とし 司令官とした。⁵ 見よ。あなたが、あなたの知らない国民を呼び寄せると、あなたを知らない国民が、あなたのところに走って来る。これは、あなたの神、主、イスラエルの聖なる者のゆえである。主があなたを輝かせたからだ。」

ダビデが王の時、彼のところには、イスラエル人だけでなく、異邦人も仕えました。いろいろな異邦人の家臣がいました。ペリシテのガテ人イタイに至っては、エルサレムに息子アブサロムのクーデターが起こって、ダビデが逃げる準備をしていた時に、王についていく決意を表明しています(Ⅱサム 15:21)。このように、ダビデは諸国の民への証人となりました。

そして終わりの日に、同じようなことが起こります。ダビデの子であるキリストが王となると、そこに、どこから来たのか分からないくらい、知られていない異邦人もついてくることになるのです。それだけ、聖なる方、主がイスラエルについておられ、輝かせてくださるということでもあります。

3C 豊かな憐れみ 6-7

⁶ 主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。

先ほどは、無償で、渴いている者は飲みなさいという呼びかけでした。こちらは、主にお会いできる間に、求めよという呼びかけです。主の恵みというのは、こういうものです。ただで受けなさいと言われてはいるのに、「私は、これこれを行ってから、準備をして、それで受け取ります。」とやったら、それは恵みではなくなるのです。今、それを受け取るから、恵みなのです。無償なのです。自分が何かをしたり、準備していたら、まだ自分が自分を救う余地があることを示しています。ただ、今のありのままの自分で主のところに行くのです。それが、ここの「お会いできる間に」「近くにおられるうちに」の意味です。

⁷ 悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。

ここで大事なのは、「主に帰れば、豊かに憐れんでくださる」ということです。自分が行った悪がどれほど多くても、主が、それをすべて帳消しにしてくださるほど、憐れみは大きいのだということです。「エゼ 18:21-23 しかし、悪しき者でも、自分が犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべての掟を守り、公正と義を行うなら、その人は必ず生きる。死ぬことはない。22 彼が行ったすべての背きは覚えられることがなく、彼が行った正しいことのゆえに、彼は生きる。23 わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか——【神】である主のことば——。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。」すべての背きは覚えられることはないのです！イザヤは、1章においても、「たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。(18節)」とっていました。

2B 思いを超えた道 8-13

この憐れみの豊かさについて、私たちの思いをはるかに超えることを、次に語られます。

2C 必ず成し遂げることば 8-11

⁸ わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。——主のことば——⁹ 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

私たちは、神の恵みに驚くべきです。それは、私たちがこうだと思っていたことを、はるかに超え

て、事を成し遂げてくださるからです。

ユダヤ人たちがイエスを信じて、エルサレムで迫害が起こり、ステパノが殉教したことを思い出してください。それで人々は散っていきましたが、ある人たちは北上して、福音を語っていきました。その時に、ユダヤ人ではない人たちにも語り始めたら、信じて行ったのです。その時は、まだユダヤ人の中だけのことだ思っていたのです。ところが、アンティオキアで異邦人がそのまま福音を信じていきました。それで、エルサレムの人たちがバルナバを遣わします。「使 11:23 バルナバはそこに到着し、神の恵みを見て喜んだ。そして、心を堅く保っていつも主にとどまっているようにと、皆を励ました。」

私からのアドバイスは、「神のなさることは、まずもって、自分が考えていることではないと思っていい。」であります。私たちの願うことをはるかに超えているので、今、思っていることとは異なることを、主は行われます。そしてそれは主が意地悪をしているのではなく、その逆で、私たちにあまりにも良いことを行われているので、自分の願ったとおりにならないのです。それが、ここで言っている、主の思いが、天が地よりも高いように、私たちの思いをはるかに超えているということです。

¹⁰ 雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く人に種を与え、食べる人にパンを与える。¹¹ そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。

主は、天からの雨が天に戻ることはないように、ご自分の口から出た言葉は、決してご自身の口に戻らないということを仰っています。必ず主が語られたことは、その通りに成就するのだという約束です。パウロが、エルサレムへの旅に行っている時に、エベソの長老たちを集めて、教会に狼が入ってくることを警告しました。そして、自分がそのことにどうすることもできないことを知っていましたが、このように言っています。「使 20:32 今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」このように、主のことば自体が、その働きをします。そして、必ず成し遂げると、主が言われています。

3C 山や木々の喜び 12-13

¹² まことに、あなたがたは喜びをもって出て行き、平安のうちに導かれて行く。山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声をあげ、野の木々もみな、手を打ち鳴らす。¹³ 茨の代わりに、もみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。これは主の記念となり、絶えることのない永遠のしるしとなる。」

イスラエルは、ダビデに約束されたように神の国となりますし、そしてそこには人々が集められるだけでなく、このように自然も変えられます。イスラエルだけでなく、世界がこのようにエデンの園のようになります。アダムが罪を犯したので、いばらが土地から生えるようになりました。しかし、キリストが罪のために死なれたので、同じように自然界を神は回復してください。